

2026年度	科目名	認知発達特論(2)
	英語名	Advanced Seminar on Developmental Cognitive psychology(Ⅱ)
	科目属性	専門科目B群
	担当教員	西永堅・緒方香
	単位数	2単位(SC 0単位)

【授業の目的・ねらい】

【授業概要】※認知発達特論(1)と履修の順序は問わない

本科目では、認知と発達をキーワードに、加齢(エイジング)に焦点を当て、認知の個人差に応じた支援方法について検討できることを目指す。認知過程の基礎である記憶の発達の個人差を理解することは、加齢(エイジング)に認知機能の変容を理解することにつながる。さらに、加齢(エイジング)を理解することは、知的障害を含む発達障害のある人の青年期以降の支援につながると考える。そこで、本科目では、加齢(エイジング)によるさまざまな認知機能の変容を理解し、医療や福祉の現場における支援方法を検討できる力をつけることを目指したい。

【授業の到達目標】

この授業の具体的な到達目標は、以下の4つである。

1. 記憶の生涯発達の過程(とくに青年期、成人期、高齢者を中心に)を理解する
2. 記憶や認知のエイジングを理解する
3. 高次脳機能障害の支援を理解する
4. 発達障害の支援を理解する
5. エイジングの支援のあり方について研究する

【授業計画】

全 15 回の授業計画は以下のとおりである。

- 第1回 青年期の記憶 —短期記憶とワーキングメモリ—
 - 第2回 青年期の記憶 —エピソード記憶と意味記憶—
 - 第3回 成人期の記憶 —短期記憶とワーキングメモリ—
 - 第4回 成人期の記憶 —エピソード記憶と意味記憶—
 - 第5回 高齢者の記憶 —短期記憶とワーキングメモリ—
 - 第6回 高齢者の記憶 —エピソード記憶と意味記憶—
 - 第7回 記憶のエイジングの特徴
 - 第8回 記憶の測定法
 - 第9回 エイジングによる認知機能の成熟と成長
 - 第10回 エイジングによる認知機能(知能)の変容
 - 第11回 認知機能(知能)の測定
 - 第12回 高次脳機能障害 —記憶障害—
 - 第13回 高次脳機能障害 —その他の障害—
 - 第14回 エイジングと支援
 - 第15回 発達障害の理解と支援
- 科目修得試験

【評価方法】

「レポート評価」(50%)、「科目修得試験」(50%) の割合で総合して評価する。

【教科書】

谷口幸一・佐藤眞一(編著). (2007). エイジング心理学 老いについての理解と支援, 北大路書房.
ISBN-13: 978-4762825729

【参考図書】

太田信夫・多鹿秀継. (2008). 記憶の生涯発達心理学, 北大路書房.
ISBN-13 : 978-4762825910